

事務事業マネジメントシート（21年度実績と22年度計画）

22年度予算確定後 平成 22 年 3 月 26 日 作成
21年度決算把握後 平成 22 年 5 月 20 日 作成

事務事業名		認知症地域支援体制構築等推進事業					☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連				
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり				所属部	健康福祉部	課長名	後藤 博康	
	施策	16	高齢者・障がい者の自立促進と社会参加				所属課	高齢者支援課	担当者名	坂井 晴代	
	基本事業	50	高齢者支援体制の整備				所属班	包括支援センター班	(内線)	2118	
予算科目		会計	款	項	目	事業連番	法令根拠	認知症地域支援体制構築等推進事業実施要綱		成果優先度評価結果	1
		30	11	2	6	11427				コスト削減優先度評価結果	-
終了、開始年度		☐ 21年度で終了 ☐ 22年度から開始					事業期間	☐ 単年度のみ ☐ 単年度繰返(開始年度 年度) ☒ 期間限定複数年度 (21 ~ 22 年度)			

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	・県のモデル事業であり、地域において認知症高齢者等と家族を支えるためには認知症への対応を行なうマンパワーや拠点などの「地域資源」をネットワーク化し、相互に連携しながら有効な支援を行なう体制づくりが必要であることから先駆的に支援体制を構築し、その成果を各地に普及させることを目的に実施する事業である。今年度は、事業の最終年度でもあることから、地域資源マップ作り、任意事業(認知症の理解を深める講演会・見守りネットワーク作り、徘徊、模擬訓練等)を実施していく。また、モデル事業が終了する次年度移行も単独事業として継続することも念頭に、事業内容の見直し、効果的効率的な運営が行なえるよう考慮していく。
【業務の流れ】	コーディネーターの選定、実行委員の募集、市のビジョン設定、実行委員会議の開催
【主な予算費目】	賃金、旅費、需用費、役務費、委託料、備品購入費
【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？	県のモデル事業であり、直接意見、要望は寄せられていない。

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標	
① 手段(主な活動) 21年度実績(21年度に行った主な活動)(DO)	22年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)
コーディネーターの配置、事業の周知、実行委員の募集、認知症支援体制についての市のビジョン策定、事業計画策定、フォーラム開催	・実行委員会の開催(認知症ささえ隊)・認知症サポーターの積極的養成・認知症フォーラムの開催・徘徊、模擬訓練、見守りサポーター登録・キャラバンメイトの養成及びフォローアップ教室開催・相談会開催・チェックリスト分析・見守りネットワーク構築等
④活動指標(事務事業の活動量を表す指標)=①の指標	(単位)
⇒ア 実行委員会の開催回数	回
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	⑤対象指標(対象の大きさを表す指標)=②の指標 (単位)
認知症高齢者を取り巻く家族	⇒ア 見守り登録者数 人
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	⑥成果指標(意図の達成度を表す指標)=③の指標 (単位)
認知症になっても地域で安心して暮らすことができる	⇒ア 認知症サポーター数 人
*⑥成果指標設定の理由と平成22年度目標値設定の根拠	
認知症サポーター養成講座を受講することで、認知症への理解が図れるために設定した。今後も養成講座を継続実施し講師役であるメイトの質と量の確保を行い、知識の啓発に努める。	

(2) 各指標・総事業費の推移				単位	19年度 実績(決算)	20年度 実績(決算)	21年度 目標(当初予算)	21年度 実績(決算)	22年度 目標(当初予算)	23年度 予定	24年度 見込
④ 活動指標				ア回			5	5	10		
⑤ 対象指標				アイ人			50		70		
⑥ 成果指標				アイ人			300	936	500		
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円							
			都道府県支出金	千円							
			地方債	千円							
			その他	千円		3,884	3,884	3,884			
			繰入金	千円		43	29	207			
			一般財源	千円							
	(A) 事業費計			千円	0	0	3,927	3,913	4,091	0	0
	(A)のうち指定経費			千円							
	(A)のうち時間外、特勤			千円							
	人件費	正規職員従事人数		人			3	3	3		
		延べ業務時間		時間			300	300	800		
		(B)人件費計		千円	0	0	1,194	1,194	3,184	0	0
トータルコスト(A)+(B)				千円	0	0	5,121	5,107	7,275	0	0

総トータルコスト	
全体計画	
21 ~ 22 年度	
(期間限定複数年度のみ記載)	
	7,768
	250
	8,018
	6
	1,100
4,378	
12,396	

合志市

事務事業名	認知症地域支援体制構築等推進事業	所属部	健康福祉部	所属課	高齢者支援課
-------	------------------	-----	-------	-----	--------

2 評価の部 (SEE)

*原則は21年度の事後評価、ただし複数年度事業は21年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①21年度目標達成度評価 事務事業の前年度実績は前年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【理由】	認知症サポーター数が予定の500を上回り達成されたと思われる。
	②22年度目標達成見込み 事務事業の本年度目標値に対して本年度の見込みはついているか？	☒ 目標達成見込みあり ⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】	講座、フォーラム、ネットワーク構築、徘徊模擬訓練等、予定している事業を実施することで目標達成は可能である。
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになっていないか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】	現在はまだ認知症への対応を行うマンパワーや拠点などの「地域資源」のネットワーク化が図られていないが、構築されることにより、認知症高齢者やその家族が安心して暮らすことができる。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】	県のモデル事業であり、類似事業はない。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】	実施要綱に基づいて実施するもので10/10の補助事業のため、金額が設定されている。
	⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】	この事業を実施するために、必要最低限の時間である。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】	10/10の補助事業のため、公平・公正である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事務事業のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行出来ないか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 役割分担は適正である ⇒【理由】	認知症の方と家族を支援する体制の構築を図るものであり適正である。、

3 評価結果の総括 (SEE) ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

認知症への予防、理解が深まった。また講座開催依頼件数、サポーター登録者も増えており、今後も地域に根づいてくように推進していきたい。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善) ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善) ☒ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		○																			
	低下																					
(3) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策																						